

韓国小児整形外科学会訪問記

佐賀整肢学園こども発達医療センター整形外科

劉 斯允

さる 11 月, 第 18 回日本小児整形外科学会の最優秀英文ポスター賞をいただき, 副賞として平成 20 年 4 月の韓国小児整形外科学会(KPOS)へ参加する資格を得た. その 10 日間の韓国訪問を報告する.

出発の 2 か月前より, 日本小児整形外科学会国際委員会の亀ヶ谷先生の仲介で, ソウル大学病院整形外科の Professor Dr. Cho と連絡を取り始めた. できるだけ多くの病院を訪問したいことを伝え, 綿密なスケジュールの打ち合わせの後に, 韓国訪問の幕開けとなった.

4 月 13 日, 日曜日, 福岡空港を出発し, Incheon 空港では Resident 2 年目の Dr. Chung が出迎えてくれた. 彼の導きでソウル大学病院近くのホテルにチェックインし, 当日夜はさらに彼の案内で近くの韓国家庭料理を堪能した.

4 月 14 日, 月曜日, 朝 7 時 30 分, ソウル大学 Senior Professor Dr. Choi, Professor Dr. Cho と Professor Dr. Yoo に挨拶したあと, 早速手術見学に連れて行ってもらった. 朝 1 例目の Dr. Choi が執刀する 1 歳児の内反足手術では, Dr. Choi 自身が一つひとつの手順を詳しく説明してくれた. 2 例目は 7 歳の先天性下腿偽関節症に対して Ilizarov を用いた矯正骨切り術であったが, これも Dr. Choi が詳しく説明してくれた. 昼には大学近くの学生街で Dr. Cho とベトナム料理をいただいたあと, 市内観光の予定をキャンセルして, Dr. Yoo の執刀する Rickets 病 O 脚変形に対する大腿骨, 下腿骨の矯正骨切り術を見学した. 夜は自由行動を希望し, ひとりで明洞にてプルコギ, 骨付きカルビを賞味した. 食事後に明洞を散策したが, 1 年前のソウルにて開催された World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM)に参加の時と比べ, 中国人観光客の多さにびっくりした.

4 月 15 日, 火曜日, 朝 7 時 30 分, ソウル大学 case conference に参加した. 進行はスライド形式で, 私に対する配慮から, 患者紹介や治療法討論は英語にて行われた. Conference のあと, Professor Dr. Sou の車に乗せてもらい, 彼の属する Samsung medical cen-



写真 1. Eulji university hospital の外観

ter を訪問した。旧ソウル市から漢江を渡って江南区に入り、新しい高層ビルが林立する中に病院はあった。江南区は以前、梨の栽培が盛んであったそうだが、今はその影もなく、近代都市に変貌していた。企業主体の Samsung medical center はがんセンターと本院に分かれ、旧ソウル市内にも小規模な分院をもっている。医師全員に Samsung 製の PDA 携帯電話が渡され、さすがに企業経営という印象であった。昼は職員食堂の利用を希望したところ、1食 300 円でバイキング方式の美味しい食事が体験できた。午後は Professor Dr. Shim の執刀する 3 例の手術を見学した。1 例目は他医にて先天性内反股を大腿骨頭すべり症と誤診され、大腿骨頭にピンニングされた症例の抜釘術。2 例目は脳性麻痺患児の麻痺性股関節亜脱臼に対する内反骨切り術。3 例目は下腿骨折に対する Ilizarov を用いた固定術であった。夜は Dr. Shim および Dr. Sou と内反足の Ponseti 法治療を討論しながら韓国家庭料理をご馳走になったあと、KTX(急行列車)で Daejeon 市へ移動した。1 時間の列車移動だが、下車駅を間違えないように事前に女性車掌に下車の知らせを依頼しておいた。夜 11 時に車掌の優しい声で目が覚め、無事に Daejeon 駅で降りることができた。駅では Eulji university hospital(写真 1)の Professor Dr. Kim が迎えに来てくれており、その夜は市内のホテルに泊まった。

4 月 16 日、水曜日、朝 6 時 30 分に Fellow の Dr. Kung の迎えで 1 日が始まった。まず 7 時からの morning conference に参加した。昼まで Dr. Kim とお茶を飲みながら、症例の X 線を見せてもらい、治療法について討論した。歩行解析やボトックス治療、脳性麻痺の痙攣筋の解離術について日韓両国間の同異を話し合ったが、こども達の治療に熱い気持ちの持ち主だと実感した。また、韓国の医学部卒業後のキャリア形成システムを詳しく教えてもらった。韓国の医学部はこれまで 2 年間の premedical education 後に 4 年間の医学専門課程というシステムであったが、4 年間の premedical education 後に 4 年間の医学専門課程というシステムへの変換を検討されているとのことであった。現在は、卒業後に 1

年間の Intern と 4 年間の Resident 研修の後、Broad test という専門医試験を受けて、Fellow になる資格を取得する。資格試験後に、大半の男子は 3 年間の兵役に参加する。退役後に Fellow として病院勤務を始める。また、韓国では Fellow になってからの海外留学が一般化しており、数年後に全ての医学部に 4 年間の premedical education 制度が導入されれば、落ち着いて専門分野に専念できるのはすでに 30 歳後半になるであろうという厳しい現実を知った。午後は Dr. Kim の執刀する脳性麻痺患児の筋解離術 2 例と胸背部の化膿創掻爬術を見学した。夕食は Dr. Kim と Professor Dr. Ahn と韓国料理を賞味した。食事中に足専門医の Dr. Ahn から外反扁平足の治療プロトコルを紹介してもらった。

4 月 17 日、木曜日、朝 7 時に Eulji university hospital の Fellow 2 名と共に、KTX にて本年度開催される韓国整形外科学会(KOA)会場の Daegu 市へ移動した。車内で日韓両国間の医療保険制度について討論しながら、あつという間の 1 時間で韓国第三の都市 Daegu 市に到着した。会場の Hotel interburgo は市内最大のホテルであり、KOA 会長の Kye-Myung university の Professor Dr. Song はなんと私のためにスイートルームでの宿泊を用意してくださっていた。今回私の発表する KPOS の症例検討会は KOA の二日目にあたり、同日には 6 つの分科会が開催される予定であった。初日午後は KOA の発表を聞いてみたが、韓国語の発表であった。しかしスライドの英文部分を一生懸命読んでみると、ある程度の理解はできた。夕食は Dr. Song の会長招宴に参加した。夜 9 時に招宴が終了。Daegu 市内の夜店を見に行きたかったが、翌日の発表もあるので、豪華なスイートルームで発表の練習をした。

4 月 18 日、金曜日、朝 8 時に KPOS の会場に行き、スライドチェックを済ませ、8 時 45 分から症例検討会に参加した(写真 2)。症例検討会の第一演者が英語で発表すれば全員が英語で発表しないといけない、韓国語の発表なら全員が韓国語で発表になるという暗黙の了解があるらしい。第一演者の韓国語発表を聞いたほかの演者らのほっとした表情が印象的であった。演題は症例検討 16 題以外に、アメリカ Shriner's hospital Dr. Harry Kim のペルテス病病理変化に関する special lecture と私の脳性麻痺に対するボトックス治療の発表で計 18 題であった。参加者はおよそ 70 人で、活発な討論が繰り広げられた。私の発表に関して、2 つの大学のスタッフから、私たちの施設で考案した GMFCS レベル V 脳性麻痺患児の評価法に興味を示し、彼らの大学でも使わせてほしいという反響があった。検討会の最後に、Dr. Song より感謝状をいただき、身に余るような光栄を感じた。午後はソウル大学の Dr. Cho、慶北大学の Dr. Oh、そして Dr. Harry Kim のご家族(奥さん、二人の小



写真 2. KPOS 症例検討会での発表中の様子



写真 3. 慶州観光

写真右より慶北大学の Dr. Oh, Shriners's hospital
の Dr. Harry Kim, ソウル大学の Dr. Cho, 筆者



写真 4.
慶州の夜

学校低学年のお嬢さん)と一緒に慶州観光に出かけた(写真3)。慶州は新羅王朝の都であり、多くの遺跡が存在し、ユネスコより二つの世界遺産指定を受けている。遺跡めぐりの観光中に Dr. Harry Kim の可愛いお嬢さん達と仲良くなって楽しい時間を過ごせた。夜は民族舞踊を觀賞しながら韓国家庭料理をいただいた(写真4)。

4月19日、土曜日、朝8時に KTX にてソウル市に移動。週末はフリーな行動を希望し解放してもらったので、この日は王様の宮殿(景德宮)、南大門市場や2か月前に放火にあった南大門の焼け跡を見てきた。夜は明洞で安東地方の鳥煮込み料理を食べてみた。柔らかい鶏肉と豆腐、餅の風味はじつに素晴らしかった。安東地方は韓国北部にあり、安東産の韓牛も有名であるが、これは次回の韓国旅行の楽しみにとっておくことにした。日曜は免許なしで可能な実弾射撃を体験し、昼は念願の豚三枚肉の焼肉を食べにいった。この食堂の従業員さんと韓国版ノド自慢のテレビ番組を鑑賞することとなり、仲良くなったおかげで漬物やキムチがどんどん出てきて、結局二人前の焼肉が1800円の安さで大満足。午後は梨泰院を散策、休憩時に列車の椅子を使ったカフェで韓国お茶をもらい、先日の疲れを癒す週末となった。

4月21日、月曜日、朝7時にソウル大学関連病院の Bundang Hospital Dr. Lie の迎えて



写真 5. Bundang hospital の外観



写真 6. Seoul university hospital の本院部分

写真 7.
Bundang hospital 見学後の晚餐
写真右より同院の Dr. Lie, Dr.
Chung, 筆者, Dr. Park



同院を訪問した(写真5)。ソウル大学関連病院はソウル市内に本院(写真6)、Bundang Hospital と Boramae Hospital の三つの病院がある。神経筋疾患は Bundang Hospital, 内反足や先天性股関節脱臼を含む先天性疾患は本院を中心に診療している。韓国の神経筋疾患治療の大家の Professor Dr. Chung に是非会いたいという希望を叶えるための訪問であった。Bundang Hospital は5年前に完成、地下3階から地上14階の病院に1000床の入院設備を有しており、整形外科はこのうち120床を所有、15名の Professor や12名の Fellow が所属している。副院長兼任の Professor Dr. Chung の下、脳性麻痺や足の外科を専門にする Professor Dr. Park が整形外科実質上のリーダーである。午前中は Dr. Park と X 線フィルムの Migration Index と Acetabular Index による脳性麻痺患者の股関節手術適応の決定が妥当かどうかについて論議した。午後は Dr. Chung の外来診察を見学した。外来は2室を使用し診察のみ、電子カルテの記録は記録係の女性スタッフによるものであった。夜は Dr. Chung の厚意で韓国うなぎ料理をご馳走になった(写真7)。

4月22日、火曜日、朝7時30分、ソウル大学の case conference に参加した後、ホテルに戻って荷造りし、10日間の訪問を無事に終えて帰国した。

今回の韓国訪問で多くの友人をつくることができました。また、日韓両国の医学制度や医療実情に関して深く論議することもできました。この場をお借りして、このような機会を与えてくださった浜西 JPOA 会長ならびに日本小児整形外科学会国際委員会の先生方、特に連絡の労をとってくださいました亀ヶ谷先生に深く感謝の意を述べ、私の報告のしめとさせていただきます。